

令和2年度 文化観光局 予算概要について

令和2年度は、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催年であり、世界からの注目が集まるこの一年を、国内外からの交流人口の拡大に向けた観光・MICE振興と文化芸術創造都市の確立に向けた「集中的取組」の2年目として、これまでの実績を礎としながら、各取組を一層推進し、2020年以降の飛躍につなげてまいります。

文化観光局主要事業

1 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化 [P4]

横浜の認知度や理解度の向上、集客・賑わいづくりにつなげていくため、基礎的情報の収集・分析を踏まえ、戦略的・効果的にシティプロモーションを展開し、横浜のブランド力の向上を図ります。

2 市民の文化芸術活動の支援と環境整備 [P5]

文化的に豊かな市民生活の実現に向け、市民の皆様やNPO等が主体となって行う文化芸術活動を支援し、鑑賞、創作、体験、発表ができる機会の充実を図り、市内全域で市民の皆様が活動しやすい環境づくりを進めます。

また、文化施設の運営のほか、地域特性等に応じた区民文化センターの整備や横浜美術館、横浜みなとみらいホールの大規模改修を進めます。

3 横浜のプレゼンスを向上させる文化芸術創造都市の実現 [P7]

「ヨコハマトリエンナーレ2020」などの国際展の開催や、文化芸術を通じた国際交流の展開により、横浜のプレゼンスの向上と交流人口の増加につなげるとともに、横浜ならではの文化プログラムとしてダンス・音楽のステージの実施や、創造的イルミネーションの展開により、街に一層の賑わいを創出します。

また、歴史的建造物や公共空間等を創造活動の場として活用し、アーティスト・クリエイターの集積と企業・地域との協働の推進により、創造性を生かしたまちづくりを進めます。

4 国内外からの誘客推進と受入環境整備の推進 [P10]

海外・国内からの交流人口獲得に向けて、ターゲットに応じた戦略的な誘客促進に取り組みます。海外誘客では、新たに中国と米国西海岸に情報収集や発信等の役割を担う拠点を設置し継続的なセールス・プロモーションを行うほか、クルーズ旅客等の市内滞在・観光促進にも引き続き取り組みます。

また、三溪園・マリンタワーの大規模修繕を計画的に進めるとともに、観光資源としての魅力アップを推進します。

さらに、横浜市が目指す観光・MICEの姿や方向性を示す観光・MICE戦略策定に向けた調査を実施します。

5 グローバルMICE都市としての競争力強化 [P12]

新たなMICE施設（通称：パシフィコ横浜ノース）が2年4月に開業することを契機に、経済波及効果の高い中大型の国際会議等に加え、インセンティブ旅行などのビジネスイベントの誘致を進めます。

併せて、誘致環境の整備、開催効果の顕在化を進め、グローバルMICE都市としての競争力を強化します。

お問合せ先		
文化観光局総務課長	栗原 浩一	Tel 045-671-4346

文化観光局 お問合せ先一覧

頁	事業名	担当	電話番号
1	令和2年度 文化観光局予算案について	総務課長 栗原 浩一	671-4346
4	1 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化		
4	1(1) シティプロモーション事業	企画課横浜プロモーション担当課長 貝田 泰史	671-4065
4	1(2) 調査分析事業	企画課長 本多 由紀子	671-4030
5	2 市民の文化芸術活動の支援と環境整備		
5	2(1) 芸術文化支援事業	文化振興課長 野田 日文	671-3703
5	2(2) 文化施設運営事業	文化振興課施設担当課長 鬼木 和浩	671-3860
6	2(3) 文化施設整備事業	文化振興課修繕担当課長 新谷 雄一	671-4376
6	3(4) 横浜美術館大規模改修事業	文化振興課修繕担当課長 新谷 雄一	671-4376
6	3(5) 横浜みなとみらいホール大規模改修事業	文化振興課施設担当課長 鬼木 和浩	671-3860
7	3 横浜のプレゼンスを向上させる文化芸術創造都市の実現		
7	3(1) 横浜トリエンナーレ事業	文化プログラム推進課担当課長 梶原 敦	671-4310
8	3(2) ヨコハマ・パラトリエンナーレ事業	創造都市推進課担当課長 工藤 裕二	671-2277
8	3(3) 横浜芸術アクション事業	文化プログラム推進課担当課長 土田 俊樹	671-4023
9	3(4) 創造的イルミネーション事業	創造都市推進課創造まちづくり担当課長 河本 一満	671-4241
9	3(5) 創造界限形成事業	創造都市推進課担当課長 工藤 裕二	671-2277
10	4 国内外からの誘客推進と受入環境整備の推進		
10	4(1) 国内外からの誘客事業	観光振興課集客推進担当課長 鳥丸 雅司	671-4232
11	4(2) 三溪園施設整備等支援事業	観光振興課長 永井 由香	671-3940
11	4(3) 観光施設維持管理事業（マリンタワー改修・工事中の賑わい創出）	観光振興課長 永井 由香	671-3940
11	4(4) 横浜市観光・MICE戦略の策定に向けた調査	観光振興課長 永井 由香	671-3940
12	5 グローバルMICE都市としての競争力強化		
12	5(1) MICE誘致・開催支援事業	MICE振興課長 梶 晃三	671-4233
13	5(2) 20街区MICE施設整備運営事業	MICE振興課施設担当課長 澤田 賢一	671-4262



令和 2 年度

予算概要

文化観光局

あうたびに、あたらしい

Find Your YOKOHAMA

目 次

	ページ
I 令和2年度 文化観光局予算案について	1
○予算額の概要	
○予算編成の考え方	
◆トピックス① 「中期4か年計画」文化観光局施策の指標◆	2
・2020年以降の飛躍に向けた集中的取組	
II 令和2年度 文化観光局 主要事業	4
1 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化	4
(1) シティプロモーション事業	
(2) 調査分析事業	
2 市民の文化芸術活動の支援と環境整備	5
(1) 芸術文化支援事業	
(2) 文化施設運営事業	
(3) 文化施設整備事業（区民文化センター）	
(4) 横浜美術館大規模改修事業	
(5) 横浜みなとみらいホール大規模改修事業	
3 横浜のプレゼンスを向上させる文化芸術創造都市の実現	7
(1) 横浜トリエンナーレ事業	
(2) ヨコハマ・パラトリエンナーレ事業	
(3) 横浜芸術アクション事業	
(4) 創造的イルミネーション事業	
(5) 創造界限形成事業	
4 国内外からの誘客推進と受入環境整備の推進	10
(1) 国内外からの誘客事業	
(2) 三溪園施設整備等支援事業	
(3) 観光施設維持管理事業（マリンタワー改修・工事中の賑わい創出）	
(4) 横浜市観光・MICE戦略の策定に向けた調査	
◆トピックス② クルーズ・フレンドリー・プログラム◆	11
5 グローバルMICE都市としての競争力強化	12
(1) MICE誘致・開催支援事業	
(2) 20街区MICE施設整備運営事業	
◆トピックス③ 国際的なMICE拠点都市・横浜◆	13
◆トピックス④「クリエイティブ・チルドレン」・「クリエイティブ・インクルージョン」◆	14
III 令和2年度 文化観光局予算案総括表	16
IV 予算科目別内訳	17
1 文化観光総務費	17
2 文化芸術創造都市推進費	18
3 文化プログラム推進費	22
4 観光MICE振興費	23

I 令和2年度 文化観光局予算案について

予算額の概要

令和2年度の文化観光局の一般会計予算額は、142億8,390万円、対前年度39億3,279万円の増、38.0%の増となっています。

主な増額理由は、文化施設整備事業及び20街区MICE施設整備運営事業の増によるものです。

区分	2年度予算額	元年度予算額	増減
一般会計	142億8,390万円	103億5,111万円	39億3,279万円 (38.0%)

(内訳は 16 ページの文化観光局予算案総括表を御覧ください。)

予算編成の考え方

1. 2020年以降の飛躍に向けた集中的取組

令和2(2020)年度は、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催年であり、横浜の発展のための大きなチャンスが到来します。ラグビーワールドカップ2019™に続き、世界からの注目が集まるこの一年を、国内外からの交流人口の拡大に向けた観光・MICE振興と文化芸術創造都市の確立に向けた「集中的取組」の2年目として、これまでの実績を礎としながら、各取組を一層充実・加速します。

観光・MICE施策においては、国内外からの来訪を促すための個人及び法人向けセールス・プロモーションの強化や観光客の受入環境の充実、和の観光資源である「三溪園」の環境整備に取り組むとともに、2年4月に、「パシフィコ横浜ノース」を開業し、運営を開始します。さらに、横浜市が目指す観光・MICEの姿や方向性を示す戦略策定に向けた調査を新たに実施します。

文化芸術創造都市施策では、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催年にふさわしい、横浜ならではの文化プログラムとして、ダンス・音楽のステージ等を開催するほか、「ヨコハマトリエンナーレ2020」、「創造的イルミネーション」の実施など、昼も夜も楽しめるコンテンツを充実します。また、子どもたちの感性や創造性を育むための次世代育成や「ヨコハマ・パラトリエンナーレ2020」の開催などにより、社会包摂の取組を推進します。

市民の文化活動の環境整備として、区民文化センターの整備(瀬谷区、港北区、都筑区)を進めるほか、横浜美術館及び横浜みなとみらいホールの長寿命化に向けた大規模改修を進めます。

これらの施策の連携により、相乗効果を生み出すよう、局一丸となって推進していきます。

2. 「選ばれる都市 横浜」の実現に向けて

基盤となる5つの柱に基づき計画的・効果的に各施策を進めるとともに、「2020年以降の飛躍に向けた集中的取組」を実現するため、市民の皆様をはじめ、地域、事業者、団体、NPOなど様々な皆様と連携し、各取組を展開します。

また、「社会包摂」と「次世代育成」を、分野を超えた局の共通理念として、各施策に反映させます。これにより、市民の皆様にとって誇れるまち、国内・海外から「選ばれる都市 横浜」の実現を目指します。

○基盤となる5つの柱

- 1 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化
- 2 市民の文化芸術活動の支援と環境整備
- 3 横浜のプレゼンスを向上させる文化芸術創造都市の実現
- 4 国内外からの誘客推進と受入環境整備の推進
- 5 グローバルMICE都市としての競争力強化

共通理念 「社会包摂」と「次世代育成」の推進
～クリエイティブ・インクルージョン／クリエイティブ・チルドレン～

◆トピックス① 「中期4か年計画」文化観光局施策の指標◆

「横浜市中期4か年計画 2018～2021」では、都市間競争が激化する中で、人や企業から選ばれる都市となるよう、文化芸術創造都市や観光・MICEの振興、街の魅力や賑わいづくりにつながる観光誘客の促進を図っています。各指標の目標値と取組状況は次のとおりです。

指 標	策定時	H30年度	目標値(R3年度末)
政策5 文化芸術創造都市による魅力・賑わいの創出			
文化芸術創造都市施策の浸透度※1	3.85 (H29年度)	3.88 (H30年度)	4.00
政策6 観光・MICEの推進			
観光消費額	3,557億円(H29年)	3,633億円(H30年)	3,821億円(R3年)
外国人延べ宿泊者数	73万人(H29年)	74万人(H30年)	93万人(R3年)
国際会議総参加者数 (JNTO※2基準)	31万人(H28年)	22万人(H30年)	35万人(R3年)

※1 文化芸術創造都市施策の浸透度を測る指標として、横浜に対し市民が持つイメージを数値化したもの(最高値6P～最低値0P)

※2 JNTO:Japan National Tourism Organization(日本政府観光局)

2020年以降の飛躍に向けた集中的取組

2019

2020

2021

世界の注目が集まるビッグイベントが続く2年

国内外からの交流人口拡大に向けた
「観光・MICE振興」と「文化芸術創造都市の確立」

2020年以降の飛躍のための積極投資

「あうたびに、あたらしい」
世界の「YOKOHAMA」へ

4つの集中的取組

I 街中が祝祭感にあふれ、昼も夜も楽しめる魅力づくり

〈主な取組〉

- ・街中に広がる「音楽・ダンス・アート」による横浜ならではの文化プログラムの実施 (p. 8)
- ・東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とした市内芸術文化活動の活性化 (p. 5)
- ・横浜ならではの夜を演出する創造的イルミネーション (p. 9)
- ・企画展開催にあわせた横浜美術館夜間開館の実施 (p. 5)

II 横浜の魅力を広げる国内外への誘客・プロモーション促進

〈主な取組〉

- ・訪日客に向けた効果的なシティプロモーション (p. 4)
- ・旅行口コミサイト等を活用した海外個人旅行者向けプロモーションの実施 (p. 10)
- ・検索サイト広告等を活用した横浜観光情報公式ウェブサイトへの誘導、発信強化 (p. 23)

III 観光資源のさらなる充実

〈主な取組〉

- ・和の観光資源である三溪園でのオリパラ期間を中心とした催事の企画運営 (p. 11)
- ・横浜マリンタワーの工事期間中の仮囲いや塔体等を活用した空間演出の実施 (p. 11)
- ・外国人旅行者に訴求できる観光資源の開発と商品化の促進 (p. 23)
- ・民間事業者との協働による新たな観光資源の創出 (p. 23)
- ・横浜能楽堂における和の魅力が体感できるプログラムの実施 (p. 5)

IV 広域連携による周遊観光の促進と市内経済の活性化

〈主な取組〉

- ・横浜宿泊の増に向けた広域連携による周遊観光促進 (p. 10)
- ・横浜MICE開催応援プランの実施による主催者の満足度の向上と経済活性化 (p. 12)

● (公財)横浜観光コンベンション・ビューロー体制強化

● 市内連携による事業の展開

Ⅱ 令和2年度 文化観光局 主要事業

1

戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化

ラグビーワールドカップ 2019™に続き、東京 2020 オリンピック・パラリンピックという機会を活かし、横浜の認知度や理解度の向上、集客・賑わいづくりにつなげていくため、基礎的情報の収集・分析を踏まえ、戦略的・効果的にシティプロモーションを展開し、横浜のブランド力の向上を図ります。

(1) シティプロモーション事業

9,568 万円（前年度：1 億 2,125 万円） p. 17

横浜の魅力を表すスローガンとして、「あうたびに、あたらしい Find Your YOKOHAMA」を掲げ、重点的に訴求すべき要素とターゲットを設定し、効果的な媒体や手法を選択しながら、シティプロモーションを展開します。

2年度は、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの機会を捉え、空港や主要ターミナルなど訪日外国人の動線上において、デジタル技術を使った新たな映像によるプロモーションを行うことで、将来的な横浜への来訪にもつながるよう、都市の認知度を向上させていきます。

また、コンテンツとのタイアップをはじめ、民間企業等と協力し、横浜のブランド力向上につながる新たな魅力づくりを進めていきます。



【プロモーション動画】



【実物大のガンダムを動かすプロジェクト「GUNDAM FACTORY YOKOHAMA」】

(2) 調査分析事業

1,026 万円（前年度：1,026 万円） p. 17

市内で実施されるイベントや文化・観光施設に関する認知度、訪問意欲等の把握や、他都市との比較による来訪目的や都市の魅力についての調査を実施します。また、ラグビーワールドカップ 2019™開催後の英国での認知率等を調査するなど、施策立案の基礎資料として活用します。

2

市民の文化芸術活動の支援と環境整備

文化的に豊かな市民生活の実現に向け、市民の皆様やNPO等が主体となって行う文化芸術活動を支援し、鑑賞、創作、体験、発表ができる機会の充実を図り、市内全域で市民の皆様が活動しやすい環境づくりを進めます。

また、文化施設の運営を通じて、文化芸術を身近に親しむ機会の提供や様々な情報・魅力を発信するとともに、地域特性等に応じた区民文化センターの整備や本市の文化施策の拠点である横浜美術館、横浜みなとみらいホールの長寿命化に向けた大規模改修を進めます。

(1) 芸術文化支援事業

1億8,870万円（前年度：2億3,160万円） p.20

市民の皆様が様々な文化芸術を鑑賞、創作、体験、発表できる機会の充実を目指し、市に拠点のある文化芸術団体が行う活動を支援します。

また、市内の文化芸術活動を活性化することを目的に、市内の専門文化施設等のポテンシャルを最大限に発揮したパフォーマンス企画（シンボルプログラム）や、誰もが身近で楽しめる文化芸術企画（リーディングプログラム）を市内各地で実施します。

横浜美術館では企画展開催中の週末に開館時間を延長します。



©STGK Inc.

【Sakonyama ArtFestival!! (リーディングプログラム)】

(2) 文化施設運営事業

30億3,782万円（前年度：31億4,084万円） p.20

横浜美術館、横浜みなとみらいホール、横浜能楽堂、横浜にぎわい座、関内ホール等、計15の文化施設の運営を通じて、市民の皆様が文化芸術に親しむ機会を提供するとともに、質の高い展覧会、公演等を実施し、横浜の魅力を内外へ発信します。

横浜能楽堂では、外国人等をターゲットとした和体験プログラムを実施します。

また、市民の皆様が施設を安全・安心に利用できるよう修繕を実施します。

区民文化センターのホールの天井耐震化に向けて、4区で設計を行います（鶴見、緑、青葉、戸塚）。



【横浜能楽堂メディアツアー開催状況（元年度）
仕舞「船弁慶」（観世流）梅若紀彰】

(3) 文化施設整備事業（区民文化センター）

拡充

27億7,897万円（前年度：1億5,190万円） p. 21

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、幅広い分野の文化芸術活動を活発に行うことができるよう、地域特性等に応じて文化施設（区民文化センター）を整備し、文化芸術創造都市の裾野を広げます。

- ・瀬谷区：保留床購入費 11億 728万円
（瀬谷駅南口第1地区第一種市街地再開発事業の中での整備）
- ・港北区：保留床購入費 16億6,977万円
（新綱島駅前地区第一種市街地再開発事業の中での整備）
- ・都筑区：設計協議 192万円
（都筑区における区民文化センター等整備予定地活用事業の中での整備）

(4) 横浜美術館大規模改修事業

2億5,819万円（前年度：3億675万円） p. 20

横浜美術館は、昭和63年にしゅん工してから30年が経過し、美術作品を展示、保存するうえで重要である空調設備をはじめ、電気や衛生設備等の設備機器が老朽化しているため、長寿命化を図ります。

また、展示環境の改善や、高齢者、障害者等のためのバリアフリー対応、収蔵庫の拡張等を行います。

2年度は改修工事に向けて、実施設計及び収蔵美術作品の移転等を行います。

総工事費：約120億円

工事期間：3年10月～5年度中



【横浜美術館】

(5) 横浜みなとみらいホール大規模改修事業

拡充

1億236万円（前年度：9,857万円） p. 20

利用者の安全を確保するため、大ホールや小ホール、大ホールホワイエの天井の耐震化に向けた工事を実施します。併せて、電気、空調、衛生設備等の長寿命化を図るとともに、バリアフリー対応の改修を行います。

総工事費：約73億円

工事期間：3年1月～4年6月頃



【横浜みなとみらいホール】

「ヨコハマトリエンナーレ 2020」などの国際展の開催や、文化芸術を通じた国際交流の展開により、横浜のプレゼンスの向上と交流人口の増加につながります。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催年にふさわしい、横浜ならではの文化プログラムとしてダンス・音楽のステージの実施や、創造的イルミネーションの展開により、街に一層の賑わいを創出します。

また、歴史的建造物や公共空間等を創造活動の場として活用し、アーティスト・クリエイターの集積と企業・地域との協働の推進により、創造性を生かしたまちづくりを進めます。

(1) 横浜トリエンナーレ事業

拡充

4億400万円（前年度：1億3,000万円）

p. 22

我が国を代表する現代アートの国際展、『ヨコハマトリエンナーレ 2020「Afterglow—光の破片をつかまえる」』を開催します。

7回目の開催となる今回は、インドを拠点に活動する3人組のアーティスト集団「ラクス・メディア・コレクティブ」が、アーティストリック・ディレクターを務めます。彼らのディレクションの特徴は、「テーマ」をあえて示さず、発想の原点（原典）である「ソース」をアーティストや鑑賞者、そのほか様々な形で本展に関わる人々と共有し、思考を続けていくことによってトリエンナーレを形作ることにあります。

タイトルの「Afterglow（残光）」は私たちが日常生活の中で知らず知らずのうちに触れていた、宇宙誕生の瞬間に発せられた光の破片を指すものとして選ばれた言葉です。

○開催概要

ヨコハマトリエンナーレ 2020「Afterglow—光の破片をつかまえる」

【会期】2年7月3日（金）～10月11日（日）

【会場】横浜美術館、プロット48（みなとみらい21中央地区48街区）

【開場日数】90日間※毎週木曜日休場（7月23日、8月13日、10月8日を除く）

【アーティストリック・ディレクター】ラクス・メディア・コレクティブ

文化芸術創造都市・横浜の発展をリードするとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与することを使命とし、「アートでひらく」、「世界につながる」、「まちにひろがる」の3つの目標を掲げ事業に取り組みます。

創造界隈拠点や企業との連携、市民サポーターとの協働等、横浜ならではのまちの力と一体となって開催し、賑わいを創出します。

（撮影：加藤健 写真提供：横浜トリエンナーレ組織委員会）



【ジョコ・アヴィアント《善と悪の境界はひどく縮れている》2017
ヨコハマトリエンナーレ 2017 展示風景】

(2) ヨコハマ・パラトリエンナーレ事業

拡充

6,000 万円（前年度：2,000 万円） p. 18

障害のある方とアーティストなどの多様な分野のプロフェッショナルとの協働による現代アートの国際展「ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2020」を開催します。

本事業は、アートの方で人々の出会いと協働の機会を創出し、誰もが居場所と役割を実感できる地域社会の実現を目的に、健康福祉局とともに取り組んでおり※、平成 26 年度の初開催以来、「横浜トリエンナーレ」に合わせて開催しています。

※…健康福祉局で 1,600 万円を別途計上

○ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2020 開催概要

【会期】 本会期：2 年 11 月 12 日(木)～11 月 28 日(土)

プレ会期：2 年夏

【会場】 横浜市役所アトリウム（新市庁舎）、
神奈川県民ホールギャラリー、
みなとみらい本町小学校 等

【内容】 展覧会、パフォーマンス、
フードプロジェクト 等

(撮影：加藤甫)



【ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2017】

(3) 横浜芸術アクション事業

一部新規

1 億 5,500 万円（前年度：3 億 9,120 万円） p. 22

東京 2020 オリンピック・パラリンピックを契機に、「ヨコハマトリエンナーレ 2020」とともに、横浜ならではの文化プログラムとして、ダンス・音楽のステージ等を実施し、横浜を訪れる訪日外国人など、市内外からの来街者をおもてなしすることにより、街に一層の賑わいを創出するとともに横浜の文化芸術の魅力を発信します。

【期間】 2 年 7 月～9 月

【会場】 市内の商業施設等

【内容】 来街者で賑わう街中のオープンスペースで、市民参加によるストリートライブやダンスパフォーマンスなどを行います。東京 2020 オリンピック・パラリンピックや「ヨコハマトリエンナーレ 2020」の開催に合わせ、訪日外国人などが楽しめるプログラムも実施します。

©oono ryusuke



【横浜音楽祭 2019 街に広がる音プロジェクト】

©菅原康太



【Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018 横浜ダンスパラダイス】

(4) 創造的イルミネーション事業

拡充

3億3,500万円（前年度：3億円） p. 18

横浜のナイトタイムエコノミー活性化の契機とするため、都心臨海部において、多くの人が集い誰もが楽しめる、夜を美しく彩る横浜ならではのイルミネーションを展開します。

併せて、街全体で光の演出を行うとともに、大型客船の寄港時に、海から見た夜景を印象付けられるよう、光の演出ポイント等を増やします。また、街の回遊性の向上を目指し、地域で行われている様々なイルミネーションとより一体的な連携を進めます。

イルミネーションや光の演出を創造的に行うことにより、世界から選ばれる夜間の観光コンテンツを創出し、「文化芸術創造都市・横浜」のプレゼンス向上を図ります。

< 2年度実施概要 >

【期間】 2年11月中旬～3年1月上旬

【会場】 イルミネーションゾーン 都心臨海部 等
光の演出ビューポイント 大さん橋 等



【街全体の光の演出風景】



【イルミネーションゾーン イメージ】

(5) 創造界隈形成事業

拡充

3億3,748万円（前年度：3億2,211万円） p. 18

歴史的建造物や公共空間等、都心臨海部の地域資源を有効活用した創造界隈拠点として、YCCヨコハマ創造都市センター（以下「YCC」という。）や、急な坂スタジオ、象の鼻テラス、THE BAYS、BankART1929の運営・管理を行い、アーティスト・クリエイターの集積や地域との連携を通して、地域の活性化を図ります。違法な小規模飲食店が多数立地していた初黄・日ノ出町地区は、引き続き、地域・警察・行政が一体となって、文化芸術の力を生かしたまちの再生を進めます。

また、YCCにおいて、天井の耐震化に向けた工事（3年度実施予定）の実施設計や計画修繕を実施し、安全・安心な施設保全に取り組みます。さらに、「ヨコハマトリエンナーレ2020」の開催に合わせて、各拠点が連携し、賑わいの創出につながる取組を行います。

海外・国内からの交流人口獲得に向けた都市間競争の中で、ターゲットに応じた戦略的な誘客促進に取り組みます。特に、海外からの誘客では、新たに現地での情報の収集や発信等の役割を担う拠点を設置し、変化する旅行トレンドに迅速に対応するとともに、継続的なセールス・プロモーションを行います。一方、民間事業者と連携し、市内の観光客等の回遊性向上の取組を継続し、クルーズ旅客等の市内滞在・観光を促進します。

また、所管施設の大規模修繕を計画的に実施するとともに、三溪園での東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催期間を中心とした催事の企画運営など、観光資源としての魅力アップを推進します。

さらに、横浜市が目指す観光・MICEの姿や方向性を示す観光・MICE戦略策定に向けた調査を実施します。

(1) 国内外からの誘客事業

一部新規

1億9,715万円（前年度：2億310万円） p. 23

◇海外誘客

市内外国人延べ宿泊者数増を図るため、各市場の特徴を踏まえた観光プロモーションを実施します。

2年度から、海外誘客事業拠点として新たに中国と米国西海岸に「観光レップ」を設置し、現地でのネットワークや旅行トレンドの情報収集・分析等を行い、変化する市場に迅速に対応し誘客につなげます。

訪日リピーターの多いアジア圏に対しては、個人旅行の進展に対応するため、インターネットを活用したプロモーションを行います。また、クルーズ旅客の滞在・観光促進のため、船社や旅行会社等へのセールスや市内回遊促進プログラムを継続します。

加えて、横浜に来訪する外国人旅行者の実態調査を継続し、施策や事業に反映していきます。さらに、近隣都市の観光コンテンツも活用し、広域周遊プロモーションの実現を図ります。

◇国内誘客

国内からの誘客・宿泊の促進では、修学旅行を含む団体旅行の地方セールスや、個人旅行者向けSNS等を活用したプロモーションを実施します。

また、横浜を舞台とした映画等や、市内で開催されるイベント等を活用した集客プロモーションを展開します。



【中国向け誘客プロモーションの紹介】



【国内向け旅行会社と市内観光関連事業者との商談会の様子】

(2) 三溪園施設整備等支援事業

拡充

3億907万円（前年度：3億100万円） p.24

重要文化財等建造物の大規模修繕等について、工期を三期に分け、2年度は臨春閣の屋根の葺き替えなど、緊急度の高い建造物から実施していきます。

併せて、受付棟の老朽化対応や受入環境の向上に向け、正門周辺の再整備の検討に着手します。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック期間中を中心に、特別な催しを企画するほか、(公財)三溪園保勝会の機能強化を図ります。



【大規模修繕対象施設 臨春閣（重要文化財）】

(3) 観光施設維持管理事業（マリンタワー改修・工事中の賑わい創出）

拡充

4億4,870万円（前年度：1億1,000万円） p.24

横浜マリンタワーは、次期運営等事業者による運営開始（4年度を予定）までの間、改修工事（塔体塗装修繕、展望用昇降機制御装置更新、空調機器更新ほか）を行います。

また、工事期間中において、仮囲いや塔体等を活用したイルミネーションなどの空間演出を実施します。



【横浜マリンタワー】

(4) 横浜市観光・MICE戦略の策定に向けた調査

新規

2,000万円（前年度：－） p.24

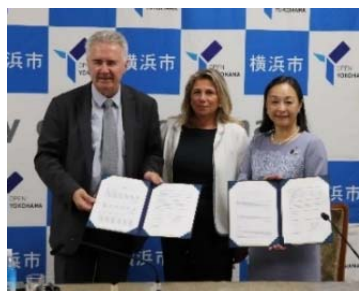
今後の横浜の観光・MICEの状況を見据え、横浜市が目指す観光・MICEの姿や方向性を示す戦略策定に向けた調査を実施します。

◆トピックス② クルーズ・フレンドリー・プログラム◆

横浜港は国内有数のクルーズ拠点として、客船寄港数が年々増加しています。これに伴い、訪日クルーズ旅客やクルーの市内での回遊と観光消費を促進するために「クルーズ・フレンドリー・プログラム」を元年10月より開始しました。

プログラムの趣旨に賛同いただいた、横浜港周辺の事業者（観光施設、飲食店、物販店、港湾事業者等）と連携し、地域が一体となってクルーズ旅客等のニーズに合わせたサービス（笑顔での応対、英語対応、クレジットカード決済等）を提供し、安心して快適に市内で回遊していただくことを目指しています。

2年度以降も事業を継続し、プログラム利用の拡大を図ります。



【ヴァール県商工会議所とのライセンス契約締結式(元.10.11)】



【ロゴマーク】

新たなMICE施設（通称：パシフィコ横浜ノース）が2年4月に開業することを契機に、経済波及効果の高い中大型の国際会議等に加え、インセンティブ旅行などのビジネスイベントの誘致を進めます。

併せて、誘致環境の整備、開催効果の顕在化を進め、グローバルMICE都市としての競争力を強化します。

（1）MICE誘致・開催支援事業

拡充

3億3,871万円（前年度：2億6,165万円）

p. 24

◇MICE誘致

経済波及効果の高い中大型の国際会議や医学会議に加え、IoTやライフイノベーションなどの成長分野の会議や、インセンティブ旅行などの誘致及び開催支援を行います。

商談会や見本市への参加などによる国内外でのセールス活動を進めるとともに、誘致助成金による国際会議の誘致を促進します。



【「第39回地球科学・リモートセンシング国際シンポジウム」の様子】

◇MICE開催支援・受入環境整備

MICE開催応援プランやユニークベニューの開発・活用によるアフターコンベンションを促進し、会議主催者や参加者の満足度を高める受入環境を整備します。

◇MICE次世代育成事業

国際会議や展示会の開催に合わせ、国内外で活躍する研究者等を講師に迎え、市内の児童・生徒を対象とした講演やワークショップなどを開催します。研究者との交流や、普段体験できない特別な実習などを通し、次世代を担う児童・生徒が最先端の技術や情報に接し、将来の進路について考えるきっかけを提供します。

◇MICE・観光集客等イベント支援

MICE開催との連動や、横浜の歴史と魅力を活かした大規模集客イベントに対し、広報協力などの開催に向けた支援を実施します。

◇みなとみらい公共駐車場事業移管準備

2年度末に（公財）横浜市建築助成公社から本市へ移管される「みなとみらい公共駐車場」について、本市移管後の運営事業者選定手続等を進めます。

(2) 20 街区 M I C E 施設整備運営事業

拡充

33 億 1,364 万円 (前年度 : 22 億 5,190 万円) p. 24

パシフィコ横浜の隣接地 (みなとみらい 21 中央地区 20 街区) にて、P F I 事業で整備を進めていた新たな M I C E 施設 (通称 : パシフィコ横浜ノース) が 2 年 4 月に開業します。これを契機に、M I C E の市場規模の世界的な拡大や横浜での開催需要に応え、より一層の M I C E 振興を図ります。

<施設概要>

階 数	地下 1 階、地上 6 階
最高の高さ	36.2m
延床面積	約 47,000㎡
多目的ホール	約 6,300㎡※
会議室	計 6,185㎡※

※運営事業者による貸し出し面積



【新たな M I C E 施設 (通称 : パシフィコ横浜ノース) のイメージ図】

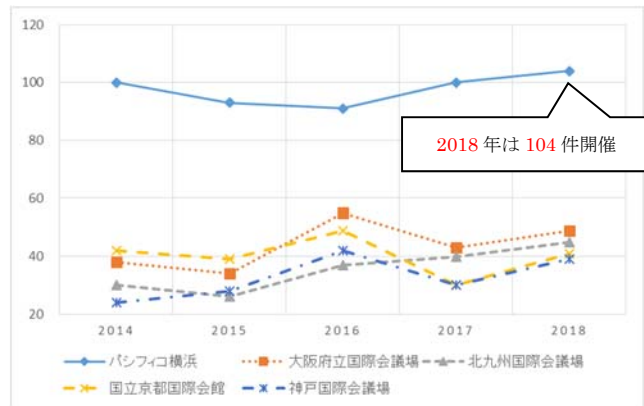
◆トピックス③ 国際的な M I C E 拠点都市・横浜◆

日本有数の M I C E 施設であるパシフィコ横浜では、国際会議をはじめ数多くの M I C E が開催されています。今後も、2 年 4 月のパシフィコ横浜ノースの開業を契機とし、さらなる賑わいを創出していきます。

●会場別国際会議参加者総数 17 期連続 全国 1 位

パシフィコ横浜は、日本政府観光局 (J N T O) 国際会議統計の会場別国際会議参加者総数が約 20 万人で 17 期連続 全国 1 位、会場別開催件数 (※) では 104 件で 16 期連続 全国 1 位となりました。

(※ただし、大学・研究機関を除く)

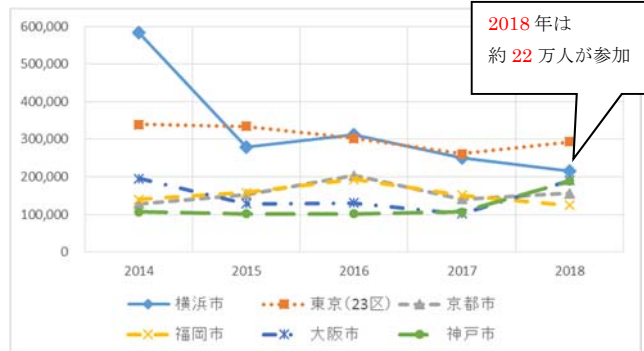


【会場別国際会議開催件数】
出典 : 日本政府観光局 (J N T O) 国際会議統計

●都市別国際会議参加者総数 全国 2 位

都市別国際会議参加者総数は約 22 万人で全国 2 位となりました。

今後も、経済波及効果の高い中大型国際会議等の誘致を積極的に推進していきます。



【都市別国際会議参加者数】
出典 : 日本政府観光局 (J N T O) 国際会議統計

◆トピックス④

「クリエイティブ・チルドレン」・「クリエイティブ・インクルージョン」◆

文化観光局では、文化振興、創造都市、観光・MICEの各分野において、「次世代育成（クリエイティブ・チルドレン）」と、誰もが対等な関係で関わりあえる社会を目指す「社会包摂（クリエイティブ・インクルージョン）」の取組を推進しています。

「次世代育成（クリエイティブ・チルドレン）」

子どもたちの豊かな創造性や感受性を育むため、学校や地域での文化芸術に親しむ機会の充実や、才能豊かな新進アーティストなど将来の芸術家を育成します。また、国際会議の開催に合わせた研究者との交流など、次世代を担う子どもたちを育成する取組を推進します。

◆芸術文化教育プログラム推進事業 p. 19

芸術文化の力により、次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽、演劇、ダンス、美術、伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを実施します。

NPO法人や市内文化施設等が、教師とアーティストのコーディネートを担当することで効果的にプログラムを提供します。

◆クラシック・ヨコハマ推進事業 p. 19

国内屈指の若手演奏家に演奏機会を提供するとともに、市民の皆様身近な場所でクラシック音楽を楽しんでいただくことを目的とし、国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜」を核に、コンサートを開催します。コンクールでは、市民の皆様を選定員になっていただき、聴衆賞「横浜市民賞」を贈呈します。



【第72回全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜】（毎日新聞社提供）

◆ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン推進事業 p. 19

次世代を担う演奏家の育成を目的に、世界各国から選抜された若手演奏家に対して、創設者の大友直人氏、アラン・ギルバート氏ら、世界の第一線で活躍する指揮者や演奏者が講師となって、横浜みなとみらいホールで集中セミナーを実施します。成果を発表する場として、室内楽やオーケストラ等のコンサートを開催します。

◆ヨコハマトリエンナーレ2020における取組（横浜トリエンナーレ事業の一部） p. 7

授業等の一環で展示会を鑑賞できる環境を整えるなど、子どもたちが展示会に親しみ、様々な表現に触れる機会を設けることにより、未来を担う子どもたちが時代の最先端である世界の現代アートの作品を身近に感じ、多様な価値観に対する理解を深めることができるよう取り組みます。

◆MICE次世代育成事業（MICE誘致・開催支援事業の一部） p.12

国際会議や展示会の開催に合わせ、国内外で活躍する研究者等を講師に迎え、市内の児童・生徒を対象とした講演やワークショップなどを開催します。研究者との交流や、普段体験できない特別な実習などを通し、次世代を担う児童・生徒が最先端の技術や情報に接し、将来の進路を考えるきっかけを提供します。



【第32回日本内視鏡外科学会総会
「ジュニア外科体験セミナーin Yokohama
ミライ☆ドクターを目指せ!」】

◆映像文化都市次世代育成事業(映像文化都市づくり推進事業の一部) p.19

横浜市内に立地する東京藝術大学大学院映像研究科が有する高度な映像表現知識・技術を活用した市民向けの地域貢献事業を引き続き実施することで、映像文化における次世代育成等を推進します。

「社会包摂（クリエイティブ・インクルージョン）」

横浜市の文化芸術の創造性を生かしたまちづくりを踏まえ、障害・人種・国籍・宗教・年齢・性別等の様々な違いを超えて創造的に課題解決を図るとともに、誰もが対等な関係で関わり合い、社会や組織に参画するという考え方をもって事業を実施します。

◆ヨコハマトリエンナーレ2020における取組(横浜トリエンナーレ事業の一部) p.7

自宅や病院等においても現代アートに触れることができる機会を設けるなど、障害や病気等様々な障壁を越えて誰もが現代アートを享受できる機会を創出し、相互理解や多様性を受け入れる豊かな社会の形成を目指して取り組みます。

◆バリアフリー能（文化施設運営事業の一部） p.5

横浜能楽堂では、障害の有無にかかわらず誰もが一緒に能や狂言を楽しめるよう、様々なサポートを用意した「バリアフリー能」を引き続き実施します。

◆ユニバーサルツーリズムの推進（横浜おもてなし事業の一部） p.23

年齢や障害の有無等に関わらず、すべての方々が横浜観光を楽しめるよう、ユニバーサルツーリズムを推進します。

2年度は、従来のバリアフリーモデルコースの情報に加え、観光施設のバリアフリー対応状況等の情報を発信します。また、市内観光関連事業者等を対象としたバリアフリーやユニバーサルツーリズムへの理解を深めていただくための研修を継続します。

◆ヨコハマ・パラトリエンナーレ事業【再掲】

p.8 参照

Ⅲ 令和2年度 文化観光局予算案総括表

(単位：千円)

科 目	2年度 予算額	元年度 予算額	差 引 増△減	前年比 (%)	主 な 増 減 事 業
4款 文化観光費	14,283,901	10,351,110	3,932,791	38.0	
1項 文化観光費	14,283,901	10,351,110	3,932,791	38.0	
1目 文化観光総務費	1,399,255	1,399,574	△ 319	△ 0.0	<ul style="list-style-type: none"> ・職員人件費 27,202千円増 ・シティプロモーション事業 △ 25,568千円 ・総務費 △ 1,453千円
2目 文化芸術創造都市推進費	7,341,571	4,879,099	2,462,472	50.5	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設整備事業 2,627,072千円増 ・ヨコハマ・パラトリエンナーレ事業 40,000千円増 ・文化施設運営事業 △ 103,026千円 ・横浜美術館大規模改修事業 △ 48,564千円
3目 文化プログラム推進費	570,200	537,565	32,635	6.1	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜トリエンナーレ事業 274,000千円増 ・横浜芸術アクション事業 △ 236,200千円 ・日中韓都市間文化交流事業 △ 3,273千円
4目 観光MICE費	4,972,875	3,534,872	1,438,003	40.7	<ul style="list-style-type: none"> ・20街区MICE施設整備運営事業 1,061,737千円増 ・観光施設維持管理事業 334,490千円増 ・MICE誘致・開催支援事業 77,059千円増

IV 予算科目別内訳

1 項 1 目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市 債	その他	一般財源
1 文化観光費 総務	千円 1,399,255	千円 1,399,574	千円 Δ319	千円 —	千円 —	千円 55	千円 1,399,200

横浜魅力づくり室

(1) シティプロモーション事業 95,680千円 (前年度 121,248千円)

横浜の魅力を表すスローガンとして、「あうたびに、あたらしい Find Your YOKOHAMA」を掲げ、重点的に訴求すべき要素とターゲットを設定し、効果的な媒体や手法を選択しながら、シティプロモーションを展開します。

2年度は、東京2020オリンピック・パラリンピックの機会を捉え、空港や主要ターミナルなど訪日外国人の動線上において、デジタル技術を使った新たな映像によるプロモーションを行うことで、将来的な横浜への来訪にもつながるよう、都市の認知度を向上させていきます。

また、コンテンツとのタイアップをはじめ、民間企業等と協力し、横浜のブランド力向上につながる新たな魅力づくりを進めていきます。

(2) 調査分析事業 10,264千円 (前年度 10,264千円)

市内で実施されるイベントや文化・観光施設に関する認知度、訪問意欲等の把握や、他都市との比較による来訪目的や都市の魅力についての調査を実施します。また、ラグビーワールドカップ2019™開催後の英国での認知率等を調査するなど、施策立案の基礎資料として活用します。

(3) フィルムコミッション事業 11,264千円 (前年度 11,264千円)

横浜のシティセールス・プロモーション等に寄与する映像作品や観光客誘致に効果のある映像作品のロケ支援を行います。

(4) 開港記念式典開催事業 4,680千円 (前年度 4,680千円)

開港記念日（6月2日）に市民の皆様や市政関係者とともに開港を祝い、横浜港の歴史と先人の業績に敬意を表するため、開港記念式典を開催します。

(5) パーソナルモビリティツアー実証実験事業 2,000千円 (前年度 2,500千円)

横浜の新たな魅力・観光資源として、都心臨海部におけるパーソナルモビリティツアーの公道実証実験を引き続き行います。

総務部

(6) 総務費 12,895千円 (前年度 14,348千円)

文化観光局職員の人材育成事業などを実施します。

(7) 人件費 1,262,472千円 (前年度 1,235,270千円)

文化観光局職員の人件費を計上します。

1項2目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市債	その他	一般財源
2 文化芸術創造都市推進費	千円 7,341,571	千円 4,879,099	千円 2,462,472	千円 1,253,728	千円 1,792,000	千円 64,162	千円 4,231,681

文化芸術創造都市推進部

(1) 創造界限形成事業 337,482千円 (前年度 322,110千円)

歴史的建造物や公共空間等、都心臨海部の地域資源を有効活用した創造界限拠点として、YCC ヨコハマ創造都市センター（旧第一銀行横浜支店）や、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラス、THE BAYS（旧関東財務局横浜財務事務所）、BankART1929の運営・管理を行い、アーティスト・クリエイターの集積や地域との連携を通して、地域の活性化を図ります。

違法な小規模飲食店が多数立地していた初黄・日ノ出町地区は、引き続き、地域・警察・行政が一体となって、文化芸術の力を生かしたまちの再生を進めます。

また、YCCにおいて、天井の耐震化に向けた工事（3年度実施予定）の実施設計や計画修繕を実施し、安全・安心な施設保全に取り組みます。さらに、「ヨコハマトリエンナーレ2020」の開催に合わせて、各拠点が連携し、賑わいの創出につながる取組を行います。

(2) ヨコハマ・パタトリエンナーレ事業 60,000千円 (前年度 20,000千円)

障害のある方とアーティストなどの多様な分野のプロフェッショナルとの協働による現代アートの国際展「ヨコハマ・パタトリエンナーレ2020」を開催します。

社会包摂の促進と横浜の魅力向上を目指し、健康福祉局とともに取り組みます。

(3) アーツコミッション事業 45,060千円 (前年度 45,060千円)

アーティスト・クリエイターの集積促進と活動支援の取組として「ワンストップ相談窓口」を運営します。また、若手アーティストの育成や、共生社会の実現を目指した創造活動に対する支援を実施し、まちの活性化を図ります。

さらに、アーティスト・クリエイターなどの関係者が相乗効果を生み出すプラットフォームを運営することで、新たなビジネス機会や横浜らしい魅力あるクリエイティブな活動の創出を促進します。

(4) 創造的イルミネーション事業 335,000千円 (前年度 300,000千円)

横浜のナイトタイムエコノミー活性化の契機とするため、都心臨海部において、多くの人が集い誰もが楽しめる、夜を美しく彩る横浜ならではのイルミネーションを展開します。

併せて、街全体で光の演出を行うとともに、大型客船の寄港時に、海から見た夜景を印象付けられるよう、光の演出ポイント等を増やします。

(5) 創造的ビジネス・コーディネート事業 15,400千円 (前年度 24,000千円)

集積したアーティスト・クリエイターなど創造的な人材と企業・地域との協働を推進し、新たなビジネス機会の創出を図る取組等への支援を行います。また、クリエイターの創造性を生かした商品（クリエイターグッズ）を販売する売場の設置・運営を継続します。

- (6) **映像文化都市づくり推進事業** **25,430千円** (前年度 26,500千円)
 横浜市内に立地する東京藝術大学大学院映像研究科が有する高度な映像表現知識・技術を活用した市民向けの地域貢献事業を引き続き実施することで、映像文化における次世代育成等を推進します。
- (7) **創造都市市民連携事業** **5,400千円** (前年度 6,666千円)
 約300名の市民ボランティアスタッフが運営に参加する「横濱JAZZ PROMENADE」や、関内地区周辺を中心に多地点で同時に開催するコンサート「ホッチポッチ・ミュージックフェスティバル」など、多くの市民の皆様が参加するイベントの開催を引き続き支援するとともに、まちの賑わいや来街者の回遊性を創出します。
- (8) **創造都市推進事業** **1,276千円** (前年度 1,542千円)
 文化芸術創造都市施策推進のための事務経費等
- (9) **芸術文化教育プログラム推進事業** **34,940千円** (前年度 34,940千円)
 次世代を担う子どもたちの感性や創造性を育むために、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽、演劇、ダンス、美術、伝統芸能等の体験ができるプログラムを実施します。
- (10) **地域文化サポート事業** **30,000千円** (前年度 30,000千円)
 地域課題の解決にアプローチするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける取組や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援します。
 また、採択団体等のサポートのため、まちづくりなどの分野と文化芸術の関わりについて意見交換を行う研修や、事業紹介のための広報誌（季刊「ヨコハマアートサイト」）の発行、団体相互のネットワークづくりのための交流会などを実施します。
- (11) **クラシック・ヨコハマ推進事業** **9,000千円** (前年度 10,000千円)
 国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会」の開催に合わせ、コンクール出場経験者をはじめ、国内屈指の若手演奏家に演奏機会を提供すること及び市民の皆様身近な場所で音楽を楽しんでいただくことを目的として、市内の様々な会場でクラシック音楽のコンサートを実施します。
 また、コンクールでは、市民の皆様を選定員になっていただき、聴衆賞「横浜市民賞」を贈呈します。
- (12) **ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン推進事業** **20,000千円** (前年度 20,000千円)
 次世代を担う演奏家の育成を目的に、世界各国から選抜された若手演奏家に対して、世界の第一線で活躍する指揮者や演奏者が講師となって、横浜みなとみらいホールで集中セミナーを実施します。成果を発表する場として、室内楽やオーケストラ等のコンサートを開催します。

(13) 芸術文化支援事業 **188,700千円** (前年度 231,600千円)

市民の皆様が様々な文化芸術を鑑賞、創作、体験、発表できる機会の充実を目指し、市に拠点のある文化芸術団体が行う活動を支援します。

また、市内の文化芸術活動を活性化させることを目的に、市内の専門文化施設等のポテンシャルを最大限に発揮したパフォーマンス企画（シンボルプログラム）や、誰もが身近で楽しめる文化芸術企画（リーディングプログラム）を市内各地で実施します。

横浜美術館では企画展開催中の週末に開館時間を延長します。

(14) フランス映画祭支援事業 **30,000千円** (前年度 30,000千円)

街の賑わいづくり及び横浜市とフランスの友好関係を強固なものとするを目的に、「横浜フランス月間」と連携しながら、フランス映画祭の開催を支援します。最新作上映のほか、市民交流・次世代育成事業を実施します。

(15) 文化施設運営事業 **3,037,816千円** (前年度 3,140,842千円)

横浜美術館、横浜みなとみらいホール等の文化施設の運営及び各施設の設備の修繕等を行うほか、2年度は区民文化センターの天井耐震化に向けて、4区で設計を行います。

○ 横浜美術館運営費	775,423千円
○ 横浜みなとみらいホール運営費	492,638千円
○ 横浜能楽堂運営費	178,485千円
○ 横浜にぎわい座運営費	213,940千円
○ 関内ホール等文化施設運営費	1,018,559千円
○ 区民文化センター天井脱落対策費	40,433千円
○ 文化施設修繕費等	318,338千円

(16) 横浜美術館大規模改修事業 **258,190千円** (前年度 306,754千円)

しゅん工してから30年が経過し、美術作品を展示、保存するうえで重要である空調設備をはじめ、電気や衛生設備等の設備機器が老朽化しているため、長寿命化を図ります。

また、展示環境の改善や、高齢者、障害者等のためのバリアフリー対応、収蔵庫の拡張等を行います。

2年度は改修工事に向けて、実施設計及び収蔵美術作品の移転等を行います。

(17) 横浜みなとみらいホール大規模改修事業 **102,361千円** (前年度 98,568千円)

利用者の安全を確保するため、「横浜市公共建築物天井脱落対策事業計画」に基づき、大ホールや小ホール、ホワイエの天井の耐震化に向けた工事を実施します。併せて、電気、空調、衛生設備等の長寿命化を図るとともに、バリアフリー対応の改修を行います。

(18) 文化施設整備事業 **2,778,972千円** (前年度 151,900千円)

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、幅広い分野の文化芸術活動を活発に行うことができるよう、地域特性等に応じて文化施設（区民文化センター）を整備し、文化芸術創造都市の裾野を広げます。

瀬谷区では保留床の購入費の一部支払い、港北区では保留床売買契約を締結し、その購入費の一部支払いを行います。都筑区では、昨年度に引き続き、設計協議等を進めます。

○ 区民文化センター整備

瀬谷区	(保留床購入費)	1,107,281千円
港北区	(保留床購入費)	1,669,771千円
都筑区	(設計協議)	1,920千円

(19) その他の文化振興事業 **26,544千円** (前年度 39,217千円)

横浜文化賞の贈呈のほか、次期指定管理者選定等を行います。

【終了事業】

(スマートイルミネーション事業)

(前年度 39,400千円)

1項3目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市債	その他	一般財源
3 文化プログラム推進費	千円 570,200	千円 537,565	千円 32,635	千円 50,000	千円 —	千円 —	千円 520,200

文化プログラム推進部

(1) 横浜トリエンナーレ事業

404,000千円 (前年度 130,000千円)

我が国を代表する現代アートの国際展として、文化芸術創造都市・横浜の発展をリードするとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与することを使命として、『ヨコハマトリエンナーレ2020「Afterglow—光の破片をつかまえる」』を開催します。

第7回展となるヨコハマトリエンナーレ2020では、インドのニューデリーを拠点とする3名のアーティスト集団、ラクス・メディア・コレクティヴを初の外国人アーティストック・ディレクターに迎え、7月3日から10月11日までの90日間、横浜美術館とプロット48（みなとみらい21中央地区48街区）を中心に展覧会を開催します。

(2) 横浜芸術アクション事業

155,000千円 (前年度 391,200千円)

東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に、「ヨコハマトリエンナーレ2020」とともに横浜ならではの文化プログラムとして、ダンス・音楽のステージ等を実施し、横浜を訪れる訪日外国人など、市内外からの来街者をおもてなしすることにより、街に一層の賑わいを創出するとともに横浜の文化芸術の魅力を発信します。

また、2021年「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA」及び2022年「横浜音祭り」の開催に向けた準備を進めます。

(3) 日中韓都市間文化交流事業

8,000千円 (前年度 11,273千円)

「東アジア文化都市 友好協力都市協定」に基づいて、引き続き、中国泉州市及び韓国光州広域市と、アーティストや芸術団体の派遣・招へい等を通じた都市間文化交流を行います。

(4) 文化プログラム推進事業

3,200千円 (前年度 5,092千円)

横浜ならではの文化プログラムを推進するための事務経費等

4	1 項 4 目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
					国・県	市 債	その他	一般財源
	観光 M I C E 振 興 費	千円 4,972,875	千円 3,534,872	千円 1,438,003	千円 —	千円 —	千円 943,564	千円 4,029,311

観光MICE振興部

1 国内外からの誘客促進 323,674千円 (前年度 336,337千円)

海外・国内からの交流人口獲得に向けた都市間競争の中で、ターゲットに応じた戦略的な誘客促進に取り組みます。

海外からの誘客では、新たに現地での情報の収集や発信等の役割を担う拠点を設置し、変化する旅行トレンドに迅速に対応するとともに、継続的にセールス・プロモーションを行います。併せて、訪日リピーターの多いアジア圏に対しては、個人旅行の進展に対応するため、インターネットを活用したプロモーションを行います。一方、民間事業者と連携した市内の観光客等の回遊性向上の取組を継続し、クルーズ旅客等の市内滞在・観光を促進します。さらに、「モノ消費」から「コト消費」への移行に対応するため、新たな観光資源の開発と商品化に取り組みます。

また、公式ウェブサイト「横浜観光情報」を一層充実させ、来訪意欲の喚起と滞在中の回遊性向上を図ります。

(1) 国内外からの誘客事業 197,154千円 (前年度 203,100千円)

- 国内外からの誘客プロモーション及びセールス
- クルーズ旅客の横浜滞在・観光促進
- 外国人旅行者に訴求できる観光資源の開発と商品化
- 外国人旅行者実態調査

(2) 観光・MICE情報発信事業 126,520千円 (前年度 133,237千円)

- ウェブサイトやSNSを活用した観光・MICEの最新情報の発信
- 観光・MICEマーケティング事業

2 観光客の受入環境整備の推進 952,520千円 (前年度 615,082千円)

観光案内所の運営など国内外からの観光客の受入環境の向上に取り組みます。また、観光消費額の拡大や市内宿泊者の増につながる新たな観光資源の開発を民間事業者との協働により実施します。

三溪園・マリンタワーについては、大規模改修を計画的に実施するとともに、観光資源としての魅力アップを推進していきます。

さらに、横浜市が目指す観光・MICEの姿や方向性を示す観光・MICE戦略策定に向けた調査を実施します。

(1) 横浜おもてなし事業 113,976千円 (前年度 135,691千円)

- 観光案内所の運営等による受入環境の向上
- 観光・MICEにおける課題解決のための民間事業者との協働事業

(2) 三溪園施設整備等支援事業 **309,068千円** (前年度 301,000千円)

- 名勝庭園、重要文化財等の歴史的建造物整備・保全の支援
- オリパラ期間を中心とした催事の企画運営と(公財)三溪園保勝会の機能強化

(3) ヨコハマ・グッズ「横濱001」育成支援事業 **2,210千円** (前年度 2,763千円)

- 認定商品の商談会等の開催や販路拡大の支援

(4) 観光施設維持管理事業(マリンタワー改修) **402,696千円** (前年度 60,000千円)

- 横浜マリンタワー改修工事

(5) 観光施設維持管理事業等 **124,570千円** (前年度 115,628千円)

- 所管観光施設の管理運営支援
- マリンタワー工事期間中の仮囲いや塔体等を活用した空間演出
- 観光動向に関する調査
- 横浜市観光・M I C E戦略の策定に向けた調査

3 M I C E誘致・開催支援 **383,044千円** (前年度 331,553千円)

中大型国際会議を軸としたM I C E全般の誘致・開催支援や、集客イベントへの開催支援に継続して取り組みます。

(1) M I C E誘致・開催支援事業 **338,707千円** (前年度 261,648千円)

- M I C E誘致
- M I C E開催支援・受入環境整備
- M I C E次世代育成事業
- M I C E・観光集客等イベント支援
- みなとみらい公共駐車場事業移管準備 等

(2) 大型国際会議等誘致・支援事業 **2,250千円** (前年度 3,955千円)

日本A P E C、第50回アジア開発銀行年次総会、3度のアフリカ開発会議などの大型国際会議の横浜開催の実績などを生かし、引き続き、大型国際会議等の誘致及び開催支援に取り組みます。

(3) 減債基金積立金 **42,087千円** (前年度 65,950千円)

(株)横浜国際平和会議場貸付金について、利子を減債基金に積み立てます。

4 20街区M I C E施設整備運営事業 **3,313,637千円** (前年度 2,251,900千円)

パシフィコ横浜の隣接地(みなとみらい21中央地区20街区)にて、P F I事業で整備を進めていた新たなM I C E施設(通称:パシフィコ横浜ノース)が2年4月に開業します。これを契機に、M I C Eの市場規模の世界的な拡大や横浜での開催需要に応え、より一層のM I C E振興を図ります。

・株式会社横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）に対する損失補償の設定

パシフィコ横浜の大規模改修の進捗に伴い、損失補償額を変更。

（２年度変更後額：6,005,000千円（元年度設定額：6,795,000千円））

（変更後の期間：２年４月～10年３月まで）

1 団体の概要

<事業目的>

国際・国内会議及び学術会議等各種催物、国内外商品等の見本市、展示会を企画、誘致及び開催する。

<設 立>

昭和62年６月３日

<基 本 金>

7,565,000千円（うち、横浜市出資額：4,100,000千円 出資割合：24.4%）

2 団体の経営状況：平成30年度決算

・営業収益 8,289,746千円 ・営業費用 7,432,629千円

・営業利益 857,117千円 ・当期純利益 167,323千円（17期連続黒字決算）

3 損失補償を行う特別な理由・必要性

大規模改修工事着手に際し、パシフィコ横浜のあり方検討を行った結果、改修工事はパシフィコが金融機関から借入を行って実施し、市は必要な支援を行うことを意思決定している。

4 対象債務の返済の見通しとその確実性

17期連続で黒字決算を達成している。今後も、売上の増加を図り、10年３月までに、対象債務を返済する見通しである。

20 ヨコハマ
トリエンナーレ
20 AFTERGLOW
光の破片をつかまえる
'14 '15 '16 '17 '18 '19 '20